

巻頭言

「サツマイモ事典」の発刊に寄せて

元農業研究センター所長

「サツマイモ事典」企画編集委員長 小林 仁

サツマイモのことならこれ1冊で何でもわかる。「サツマイモ事典」は、そんな願望を叶えるべく誕生した。この事典は、いも類振興会の創立60周年記念行事の一環として発刊されたものである。厳選して収録した解説項目は900余りに達し、分担執筆した専門家は80人を越える。サツマイモを対象にして総合的・網羅的に解説した事典は、おそらく世界的に初めての試みであろう。その編集と執筆に関与した一人として感慨ひとしおである。

思い起こせば、いも類振興会の狩谷理事長から「歴史・生産・消費・文化など多様な分野を含むサツマイモの事典を公刊したので協力してもらえないか」という打診を受けたのは、もう2年半ほど前のことになる。突然の話で、しかも作物別の「事典」などこれまで見たこともなく、イメージさえもわからない状態であった。また、かつてはサツマイモの品種改良や遺伝研究などに従事していた私も、試験研究の現場を退いてから20年以上の歳月が流れている。今の自分には、事典類の編集や執筆作業は荷が重過ぎるのではないかとも思われた。

しかし、折角の機会をみすみす見逃すこともできない。早速「いも仲間」の一人である小巻克巳氏に相談してみた。すると「ユニークな試みであるし、これからのサツマイモの振興に貢献できるなら全面的に協力

するので是非やりましょう」という心強い反応が返ってきた。かくて事典の発刊に向けての活動が始まったのである。

企画編集作業が進捗するにつれ、その昔、固い結束で定評のあった「いも仲間」の意識が今も脈脈と引き継がれていることを再認識させられた。赤坂の「いも類振興会」で2年間に15回ほど開催された企画編集委員会は常に和気あいあいの雰囲気の中で進んだ。毎回大いに啓発され、元気をもらうことができた。この会合には全国農村教育協会の元村廣司出版部長にも同席してもらい、編集・出版に関わる貴重な示唆・協力を受けて作業を効率的に進めることができた。そして事典の各項目の解説を分担執筆いただいた全国のサツマイモの研究者や関係者には、期限内の原稿提出や文章の修正に手際よく応じてもらえた。ほぼスケジュール通りに出版の日を迎えられたのは、これら「いも仲間」をはじめ関係者の絶大な協力と支援の賜物であると感じている。

近年、いも焼酎や多彩な和洋菓子類、さらに色鮮やかなジュースや機能性食品などサツマイモをめぐる新しい息吹を感じる。焼きいもや蒸切干しなど伝統食品も見直され、多種多様な展開がみられる。このような好期に、サツマイモの真価を見極め更なる発展を実現するため、本事典が活用されることを心から期待する。